

ダムの建設を契機に、地域が主体となってダム周辺の整備や保全、棚田景観の復活を計画、取組を実施し、さらに行政が一体となった活動に発展。

地区の特徴

- ・小倉千枚田は佐渡市の旧畑野町小倉地区にあり、佐渡百選に選ばれている景観豊かな棚田。
- ・S40年代には5町歩（5ha）まで拡大したが、減反政策により徐々に休耕し、耕作者の高齢化とも相まって1町歩（1ha）程度まで減少。
- ・棚田景観の復活について地域住民、県、市で話し合いを重ね、棚田オーナー制度を取り入れながら管理・保全活動を実施。また、小倉千枚田はR4年2月につなぐ棚田遺産に認定されている。



（出典：佐渡棚田協議会HP_小倉・千枚田）

農業農村整備事業との関係

【国営かんがい排水事業「佐渡地区」（H3～H25）、中山間地域総合整備事業（H17～H22）】

- ・小倉ダム建設を契機に、地域住民主体で「ダム周辺整備の構想検討、地域資源マップ作成、活動計画、役割分担の検討」が進められ、ダム周辺の植樹、小倉千枚田保全等の地域活動へと発展。

取組の内容

- ・H18年に佐渡市が棚田景観の復活へ向けた話を地元を持ちかけて以降、地元・県・市による話し合いを重ね、H19年8月に小倉地区の住民とNPO法人で構成される「小倉千枚田復活事業支援協議会」が発足。千枚田の復旧・整備方法等について協議会の中で議論・決定。
- ・各事業による水田や水路、畑地の整備を経て、H20年より棚田オーナー制度を取り入れ、管理・保全活動を実施。



地域住民と地元小学生の力で作成された宝物マップ

- ・佐渡の世界農業遺産（H23年認定）では、中山間地域の棚田等の景観や伝統文化についても評価された。これらの財産を次世代へ継承するため、H24年に佐渡棚田協議会（佐渡市農林水産課が事務局）が設立され、生産活動・棚田保全を推進。
- ・協議会HPでは、佐渡の7つの棚田と、その取組を紹介するとともに、棚田サポーター等、活動を支援する人や団体の募集を実施。



棚田の収穫状況と棚田米
（出典：佐渡棚田協議会HP_小倉・千枚田）

取組主体

○佐渡棚田協議会（事務局：佐渡市農業政策課内）